

(様式 12)

氏 名 (本籍) 染川 正多 (埼玉県)
学 位 の 種 類 博士 (歯学)
学 位 記 番 号 甲 第 354 号
学 位 授 与 日 2018 年 3 月 14 日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者 (学位規程第 11 条第 1 項該当者)
学 位 論 文 題 目 4 基本味のスクリーニング検査法を応用した味覚機能評価の有用性

論文審査委員 (主査) 教授 大川 周治
(副査) 教授 村本 和世
(副査) 教授 藤澤 政紀
(副査) 教授 中畠 裕

論文内容の要旨

本研究の目的は、20 歳代から 70 歳代までの健常有歯顎者を対象に、味覚機能のスクリーニング検査法 (以下、味覚スクリーニング法) を応用して味覚機能の評価し、本法の有用性を明らかにすることである。被験者は、全身疾患を認めずかつ顎口腔系に異常を認めない 20 歳代から 70 歳代までの健常有歯顎者 101 名とした。味覚機能検査の試薬 (以下、味溶液) として、甘味にはスクロース ($7.5 \times 10^{-2} \text{M}$)、塩味には塩化ナトリウム ($2.0 \times 10^{-1} \text{M}$)、酸味にはクエン酸 ($2.0 \times 10^{-3} \text{M}$)、苦味には塩酸キニーネ ($7.5 \times 10^{-5} \text{M}$) を使用した。味覚機能検査には全口腔法を用い、感じた味の強さに関しては VAS 法によりスコア化した値 (以下、味覚 VAS 値) については一元配置分散分析、多重比較には Dunnett の統計解析を行い、危険率が 5% 未満の場合に有意差が存在するとした。

その結果、苦味はすべての年代で正常と判定された。甘味は 20 歳代以外のすべての年代で全被験者が正常と判定された。20 歳代の甘味では、被験者の 7.4% に錯味覚もしくは味覚減退が認められた。20 歳代の塩味では 3.7%、20 歳代の酸味では 7.4% に錯味覚もしくは味覚減退が認められた。塩味は 60 歳代で、酸味は 50 歳代で全被験者が正常と判定されたが、他の年代では塩味と酸味のいずれも錯味覚もしくは味覚減退が認められるとともに、加齢により味覚異常が増加する傾向を認めた。

以上より、以下の結論を得た。1. 甘味と苦味に関しては、本法は加齢の影響を受けにくく、スクリーニング検査として有用な味覚であることが示された。2. 酸味と塩味に関しては、本法は加齢の影響が認められ、スクリーニング検査の感度としては低いことが示された。

論文審査および試験結果の要旨

本論文は、本分野で構築した若年者対象の味覚スクリーニング法を 20 歳代から 70 歳代までの健常有歯顎者に応用し、本法の多年代における味覚スクリーニング法としての有用性を検討したものである。その結果、甘味と苦味に関しては、スクリーニング検査として有用であり、酸味と塩味に関しては、スクリーニング検査の感度としては低いことが示された。一般市民を対象として実施する健診や口腔ドックにおける味覚機能のスクリーニング検査法を確立する上で、有意義な知見を提供しているものと判断できた。

申請者 染川正多に対する最終試験は、2017 年 12 月 21 日、主査 大川周治教授、副査 中畠裕教授、藤澤政紀教授、村本和世教授により、主論文の内容、専攻学術に関する口頭試問を実施し、いずれも合格と認めた。また、英語の評価に関しては大学院入学試験時の英語試験の結果をもって合格と認めた。

よって、申請者：染川 正多は、博士 (歯学) の学位を授与されるに値するものと判断した。